

ミュージカル『LAZARUSーラザルスー』

神奈川公演〈KAAT 神奈川芸術劇場〈ホール〉〉 2025年5月31日(土)~6月14日(土)

大阪公演〈フェスティバルホール〉 2025年6月28日(土)~6月29日(日)

数々の伝説を残したロックスター、デヴィッド・ボウイの遺作『LAZARUS』。ボウイ自身が主演した映画『地球に落ちて来た男』にインスパイアされて作られました。その日本初演に、Rioさんはバレンタイン役として出演。音楽×SF×アートが合わさったこれまでにない質感の作品に、演出家の白井晃さんと試行錯誤しながら臨みました。

特に苦戦した役作りでは、白井さんにおすすめされた映画『タクシードライバー』(1976年公開)の主人公トラヴィスを参考にしたそう。ボウイ自身が感じたであろう疎外感と孤独感を大事にしながら、社会から除け者にされてしまった存在の叫びを込めて、毎公演全力でバレンタインを演じきったRioさんでした。

写真提供(LAZARUS):イープラス



クールなパフォーマンスで魅せてくれたティーンズの皆様と。(左から)渡来美友さん、Rioさん、小形さくらさん、柳沢明璃咲さん。



無事に全公演完走!きっとデヴィッド・ボウイも見届けてくれたことでしょう。



前夜祭生配信。メインキャスト8人、トークとゲームで盛り上がりました!



今回の舞台衣装はすべて黒。ダーティーなRioさんはいかがでしたか?



主演の松岡充さんが、初日祝いに素敵なカンパニウェアを贈ってくださいました。

『蝶々夫人』『LAZARUS』と、それぞれ異色の作品に挑んだRioさん。『LAZARUS』東京公演を終えて一息ついたタイミングでお話をうかがいました。8月に開幕する『ある男』への期待も膨らむインタビューとなりました。



2025年上半期が終わりますが、振り返ってみていかがですか？

主に声楽家として活動した濃密な日々でしたね。実は2025年は、僕を声楽家として育ててくれた恩師との突然の別れから始まったんです。だからこそ、自分も新たなスタートを切らなきゃいけないんだなと思わされました。

リーディング・オペラ『蝶々夫人』は、オペラに馴染みがない方でも楽しめる作品でしたね。

『蝶々夫人』の物語をみなさんにお届けできる、すごくいい時間だったと思います。声楽家として歌える貴重な機会でもありました。僕が長年ジョン役で携わってきたミュージカル『ミス・サイゴン』は、『蝶々夫人』を基に作られた作品なんです。『ミス・サイゴン』というクリスの立場にあるピンカートンの僕を見て、みんながどう感じたのかが気になっています(笑)。

ミュージカルの現場ではなかなか集まらない方々との共演も新鮮でした。

本当に。特に笑三郎さんは長く歌舞伎の世界にいらっしゃる方なので、所作や気遣いが美しく勉強になりました。舞台上だけでなく楽屋での立ち居振る舞いも美しく、大人はこうあるべきなんだろうなあって。『LAZARUS』東京千穠楽の日には「千穠楽おめでとうございませう」と連絡をくださって、なんていい人なんだろうと。こうして日々を丁寧に生きていらっしゃる方と知り合えたのは、ありがたいことだなと思います。

『LAZARUS』はかなり異色な作品でしたが、この経験をどう感じていますか？

とても大きな経験になっています。演劇界で一目置かれている演出家の白井晃さんに、まるで新人のようにしごかれました(笑)。もうベコベコです(笑)。後半のとある激しいシーンを1000本ノックしたときは、本当にキツかったですね。僕は現場で芝居を学んできた人間なので、こうして芝居の基本の基を叩き上げてもらえたことはいい経験になったと思います。

Rioさんが舞台上に登場してセリフを放った瞬間、「いつもと声が違う!」と驚かされました。

『LAZARUS』までは声楽家としての活動が続いていたこともあって、声が響きすぎるというのが最初の課題でした。セリフも歌も、自分で響かせようとしていなくても響いてしまっ。白井さんとしては、声が響くと威厳が出てしまうので、それを抑えて役の弱さを出したかったようなんです。まずは声の響きをなくそうというところから始まり、僕は武器を取り上げられて丸裸の状態でした(苦笑)。



バレンタインを演じてみて、改めてどんな役だと感じましたか？

バレンタインは、デヴィッド・ボワイもしくはニュートン自身の中にあるダーティーな側面であり、実際に人から疎外されてきた孤独な男という2つの役割があると思っています。役の心情を理解するのにはとても苦労しました。なぜなら僕にも幼少期にいじめられて疎外された経験があって、そのとき感じた怖さにずっと蓋をして生きてきたから。でもバレンタイン役を掘り下げていくうちに、自然と過去の自分のトラウマに向き合うことになりました。最終的に、答えは全て自分の中にあったんですよ。自分の底にあったものを掘り起こして、バレンタインとして舞台上に立つこと自体がセラピーみたいだなあとも感じました。バレンタインを演じることで、自分の中にあった弱さを受け入れてあげることができたような気がします。Der Mondistの中にも過去に辛い経験がある方がいるかもしれないけれど、怖がらずに自分と向き合う時間を持つてみてもらえたらいいなと思います。

『ある男』の稽古も始まっているようですが、どんな作品になりそうですか？

僕もどうなっていくんだろうとワクワクしているところです。初演だからクリエイティブに作っていきなと思ってます。台本や楽譜はあるけれど、実際に立ち稽古をしながらどんどん変わっていくんです。大変だけど初演ならではの面白さがありますね。『1789』のメンバーがいるのも心強いです。浦井の健ちゃんと舞台で共演するのは、2011年の『ロミオ & ジュリエット』ぶりなんじゃないかなあ。先日、健ちゃんとソニンと一緒にシーンの稽古をしたのですが、すごく懐かしくて楽しかったです。

原作がとにかくいいので、その良さをミュージカルにしたときにいかに損なわずに作り上げるか、みんなで吟味しながら作っています。僕たちも手探りでまだどうなるかわからないけれど、本当に素晴らしいキャストのみなさんと、真摯で誠実なクリエイター陣が揃っていると思います。この暑い夏、みんなですったもんだしながらなんとか開幕に間に合わせますので、楽しみにしてください!

